

次世代船舶

HANARIA

を徹底解説



2024 年 4 月から運航開始

共有船「HANARIA (ハナリア)」は、航空機のcockpitを連想させる操舵室など特徴的な外観を有し、次世代のエネルギーとして期待される水素とバイオディーゼル燃料を活用した国内初の旅客船です。今回は、海運業界のカーボンニュートラル社会の実現に向けて注目されている最先端のクルーズ船についてご紹介します。

カーボンニュートラルとは？：温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させ、実質ゼロにする取り組み。

HANARIA

全 長：33m
全 幅：10m
総トン数：238トン
航海速度：約10.5ノット
定 員：約100名
(60名程度推奨)
使用燃料：水素&バイオディーゼル燃料のハイブリッド
推進方法：電気推進 (EV)
航 路：小倉、門司周辺

HANARIAの自慢

1 国内初の水素電池船！

HANARIAは、総トン数20トン以上の船舶としては、国内初の水素燃料電池船です。動力源として水素燃料電池2基とリチウムイオンバッテリー2基、ディーゼル発電機1基を搭載しており、推進エネルギーを選択して航行することが可能です。現在これが可能な旅客船は国内においてHANARIAのみです。

2 温室効果ガス削減率最大100%達成！

ゼロエミッションモード (水素燃料電池やリチウムイオンバッテリーを活用するモード) と通常運航モード (バイオディーゼル燃料も活用するモード) を切り替えることで、従来の化石燃料使用船と比較して温室効果ガス削減率最大100%を実現しています。

2024年3月に行われた温室効果ガスを排出しないゼロエミッション運航の実証実験では、水素燃料電池のみで小倉港～白島沖洋上風力発電施設間の航行に成功しました。



発電用に 16 本の水素タンクを搭載



2 階客室は開放的な空間で景色を存分に楽しめる



1 階客室にはプロジェクター設備がある

環境にも乗客にもやさしい

1 より快適な船内空間

水素とバイオディーゼル燃料によるハイブリッド型電気推進システムを使用することで、騒音・振動が抑えられ、船内は非常に静かです。さらに、段差を少なくすることで、車いすや高齢の方なども過ごしやすいように設計されています。

2 時季限定のクルーズも

2階は開口部が広いので景色を最大限堪能できます。その魅力を活かして、この夏には船上から花火を鑑賞するクルーズが予定されているほか、関門海峡に面する和布刈神社・赤間神宮・亀山八幡宮の三社を巡る「洋上参拝クルーズ」等も楽しめます (2024年7月31日時点)。

多方面での活躍

船上から眺める景色はもちろん、船内をエンターテインメント空間として楽しめる工夫も施されています。1階客室には98インチの大型モニターとプロジェクターを完備しており、イベントや国際会議の会場など、幅広い活用が可能です。また洋上風力発電施設への人員輸送など、クルーズ以外への活用にも期待が高まっています。

世界中で進められているカーボンニュートラル社会の実現に向け、HANARIAは世界的にも高いレベルを有する日本の水素技術などが注がれた次世代の船舶です。船舶における脱炭素化のけん引役になるであろうHANARIAの活躍から今後も目が離せません。

これからもJRTTは、こうしたグリーン化をはじめとした社会課題に対応する船舶の建造を支援してまいります。



段差の少ないバリアフリー設計



【事業者紹介】

株式会社MOTENA-Sea
■設立：1989年11月28日
■本社：東京都千代田区
■コンセプト：海遊、クロスオーバーの実現

MOTENA-Seaという社名は、日本ならではの「おもてなし」を「海」というフィールドで実現し、「地域」・「社会」と「個人」を繋ぐクロスボーダー的な存在となることを目指し名付けられた。海運と社会をより身近なものにすべく、新たなマリンビジネスの在り方を社会に提案していく。

